

第3学年 英語科 学習指導案

奈良教育大学 英語教育専修 口脇和

1 単元名 Lesson 4 Speech—A Man's Life in Bhutan (TOTAL ENGLISH 3)

2 目標

- ・ペアやグループになって話し合いを行うときに、積極的に自分の意見を伝えようとしたり相手の意見を聞いたりできる。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・話し合いや発表で自分の考えを英語で適切に伝えることができる(外国語表現の能力)
- ・本文を読んだりクラスメイトの意見や発表を聞いたりして、内容を適切に理解できる(外国語理解の能力)
- ・ブータンで活躍した日本人についてのスピーチと関連させ、ブータンという国を知ることができる(言語や文化についての知識・理解)

3 教材について

・教材観

本単元は、ミクが「国際協力に貢献した日本人」というテーマでスピーチを行うという場面で、スピーチの原稿が本文となっている。聞き手にわかりやすいような話の組み立て方を学習する。

本単元で扱う言語材料は、分詞、ask/tell/want 人 to do である。本文で出てきた後に例文をいくつか提示しながら定着を図っていきたい。そして、発表原稿を作るときのルールとしてこれらの言語材料を最低1回は使うこととし、自分の考えを学習した言語材料を用いて表現することを目指す。

生徒たちにとってあまり身近でないと考えられるブータンという国で、日本人である西岡京治さんが過去に活躍したことと今でも国民から慕われる存在であることを、本文から読み取る。また、西岡さんの話を読むにあたって、ブータンやそこでの言語の使用状況についても触れたい。後半は本文を読んで感じたことを英語で書き、グループに分かれてその感想をもとに発表を行う。

・指導観

本文の内容理解の指導においては、ただ英文を理解させるだけにとどまらず、西岡さんやブータンの人々の思いなども英文から読み取らせたい。そのためにペアやグループで考え話し合いができる時間を設ける。

話し合いの活動や発表の指導では、相手の目を見ながら、はっきりと話すなどの、コミュニケーションの時に意識してほしいことを伝える。英語でコミュニケーションをするときに限らず、実生活において日本語でコミュニケーションをとる時にも役立つように指導したい。

・生徒観

略

・ESD の視点

本単元では、ESDで育みたい力のうちの1つである「コミュニケーション能力」の育成に重点を置きたい。そのため、指導者による問いに対して、ペアやグループになって話し合いをする活動を多く取り入れている。また、単元の最後に行われる感想文の発表では、話し手としてはもちろん聞き手としても適切な態度をとれるための指導も行う。

本文中にあるブータンの人々が西岡さんについて語っている文に注目すると、過去の西岡さんの功績が今生きているブータンの人々にまで語り継がれ、その人々が西岡さんの働きはこれからも自分たちを助けてくれるだろうと未来を見据えていることがわかる。西岡さんの功績が過去から現在、未来へつながっていることに気づかせたい。

本文の内容理解と同時進行で、西岡さんのすごいところ、なぜ西岡さんが今でもブータンで慕われているのか、ブータンの人々の思いなどに注目して生徒たちに考えさせたい。「どうしてブータンの人々は西岡さんを信頼し始めたのだろうか？」などの指導者による問いかけによって考えさせる。本文のまとめとして、西岡さんについての話の感想を英文3文ほどでまとめさせる。そこから発表という形で子どもたち自身の考えを発信させたい。

4 評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 積極的に自分の意見を伝えようとすることができる。 相手の意見を聞いて受け入れようとすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを英語で表現できる。 聞き手にわかりやすい英語で自分の考えを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を読んで内容を適切に理解できる。 クラスメイトの考えを聞いて、適切に理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ブータンで活躍した日本人の存在を通して、ブータンという国やそこでの言語使用状況について知ることができる。 時制の違いに注目することができる。

5 展開の概要（全5時間）

時	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価
1	①Lesson 4 の導入 Teacher Talk: Nishioka Keiji and Bhutan ②本文 4A の内容理解	<ul style="list-style-type: none"> 西岡さんが過去にブータンで活躍し、今でも人々から慕われている人であることを伝える。また、ブータンについての情報（場所や人口）も伝える。 分詞 (-ing) の役割を理解させる。 People in Bhutan say, “Fifty years ago, — a man from 	

		Japan <u>changed</u> our way of farming.” 時制に注目させ、今のブータンの人々が言っていることに気付かせる。	
2	①本文 4B の内容理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分詞（過去分詞）の役割を理解させる。 ・ He learned <u>the language spoken there</u>. 現地で話されている言葉を学んだことに注目させる。 ブータンにおける言語の使用状況を伝える。 <問い> どうして先に現地の言葉から学んだのだろうか？ ・ People <u>began to trust</u> him. 単に People trusted him. とするのではなく、began to ~がついているところに注目させる。 <問い> ブータンの人々が西岡さんを信頼し始めたきっかけは何だろうか？ 	
3	①本文 4C の内容理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ ask/tell/want 人 to do を理解させる。 ・ People in Bhutan <u>say</u>, “Nishioka <u>taught</u> — and <u>will help</u> us for a long time.” 時制に注目させ、今のブータンの人々が言っていること、未来を見据えていることに気付かせる。 ・ Nishioka <u>kept working</u> there until he died in 1992. keep ~ing を用いていることに注目させ、西岡さんが亡くなるまでブータンにいて働き続けていたことを読み取らせる。 <問い> どうして西岡さんは亡くなるまでブータンで働き続けられたのだろうか？ ・ The important thing is to <u>give others both our time and skills</u>, like Nishioka did. ただ単に外国に技術をあげることが大切なことではないことに気付かせる。 <問い> 西岡さんがブータンの土地に合わない野菜の育て方を教えてしまっていたらどうなっていたらう？技術をあげるとしたら、考えなければいけないことは何だろうか？ 	
4	①Lesson 4 のまとめ	・ 分詞 (-ing, 過去分詞) と ask/tell/want 人 to do の復	

②発表		<p>習をする。</p> <ul style="list-style-type: none">・4A~C までの内容 (西岡さんのブータンでの行動を中心に) の確認をする。・ Lesson4 の感想文を英文 3 文ほどで書く。 <p><タイトル> What I thought about the story of Mr. Nishioka</p> <ul style="list-style-type: none">・ 班に分かれて、感想文の発表を行う。	
-----	--	--	--